

令和2年度(2020年度) 第2回学校運営協議会議録

日 時 令和2年(2020年)12月1日(火) 13:00～15:00

場 所 北海道釧路養護学校 集会室

出席者 学校運営協議会委員

北海道教育大学釧路校准教授 小野川 文子 様(会長)
障がい者就業生活支援センター「ふれん」センター長(副会長)
高 谷 さふみ 様
新橋第一町内会長 高 橋 實 様
北海道社会福祉事業団白糠学園長 細 川 和 則 様
ゼペットの会会長 佐 藤 みちる 様
釧路孝仁会看護専門学校副学校長 楠 木 恵 子 様
北海道釧路養護学校PTA役員 八 幡 百合香 様

北海道釧路養護学校 校 長 小笠原 正 樹(委 員)
副 校 長 齋 藤 利 文(事務局員)
教 頭 三 浦 一 仁(事務局員)
事 務 長 山 本 哲 功(事務局員)
主幹教諭 佐々木 尚 美
学部主事(小) 綾 公 宏
学部主事(中) 志 田 雅 昭
学部主事(高) 東 裕 子
教務部長(中) 井 土 登美子
教務主任(小) 本庄谷 有希
教務主任(高) 桑 原 洋 樹

日程及び内容

13:00～	開 会 ・ 日 程 説 明	副 校 長
	発令通知(辞令交付)	校 長
13:05～	校 長 挨 拶	校 長
	学校運営協議会長挨拶	小野川会長
13:10～	自 己 紹 介	職 員
13:15～	協 議	

本校教員の不祥事と学校の対応について 校 長

＊資料配布(会議終了後回収)

<意見等>

委員 他の職員の心の状態が心配
職員の悩みの相談窓口を校内に設置し、早めに事前に受けられるように
若い職員からは管理職に直接相談しづらいのでは
近い年齢で話を聞いてもらえれば
先生はストレスにさらされることが多いのでどのようにストレスを解消するか
当該職員の責任は厳格に
親の立場としては受け入れられない

職員主導の委員会等により、改善策の具体的な言葉を記すことによる方法も
保護者・子どもだけではなく、職員のケアもあるとよい
自分事として捉えることが大事、相手にどう伝わるようにするかが難しい
自身の性癖に起因することは、ストレス等とは分けて考えるべきでは

学校運営協議会について

副校長

概要口頭説明

学校支援部会

進行 小野川 会長

<テーマ>

「高等部における地域の人材や、資源を活用した教育活動の在り方について

「教頭 資料・画面により説明」

<意見等>

- 会長 職員から課題と思われる点を先に出してもらいたい
- 高 ひまわりフェスタ販売会の中止、リサイクル活動の縮小等で機会が減っている
- 中 働く力をつけるにはどういった作業が効果的か
作業自体の面白さ、楽しさを感じさせられるようにしていきたい
- 小 身近な人との関わり、他の人とのふれあいからコミュニケーション力を学ぶように
- 委員 「就労パスポート」について学校で研修会をおこなってみるのもよい
「就業者支援講座？」等外部からの講師等の活用を図っては
福祉支援サービス等を学校側がもっと知っては
卒業後地域で生活していくことをイメージして
学校で身に付けてほしいことを外部のからの話を聞く機会を設けては
卒業生に話をしてもらう機会もあっては
- 小・中・高を通じて各個人の適性を活かした教育を
医療の立場から、社会に出て一人で生活することを考えた教育内容を
障がい者とどう一緒に暮らしていくか
学校側からも、外を知る、外に知ってもらう、発信を
自立機能の面から、日常生活の中の基本的なことを学校で教育できることはある
日常生活で当たり前なことをできる力を身に付ける
学校ではやってもらえたことを、自分でできるようにしていく
学校と地域社会で身に付けさせたい力に温度差がある。働く力だけでなく、挨拶返事等
社会に出ると「ほめられる」から「注意され」成長していく
作業を通じて地域と関われることを
福祉と教育の歩み寄り、相互理解が必要
家庭でできることを意識することも大事
コミュニケーション能力の成長をどう手助けしていくか
自分で発信できるようになることが課題

学校評価部会

<テーマ>

「学校評価について」 主幹教諭 資料・画面により説明

意見等

委員 アンケートの内容が自己評価的に思われる

行事等学校の全体的な評価項目があってもよい

自己評価と全体の評価は分けて

アンケートを答える対象として教員と寄宿舎指導員の他にどのような人がいるのか

事務部、介護員等、全教職員が対象

保護者には「わからない」項目内容がある

→職員による年度末反省と合わせているが、来年度以降一緒にできるか検討していく

会長挨拶 子供・教職員・保護者、それぞれの間の意識のズレを自覚し、視点の切り替えをしつつ連携を図っていくことが大切

15:00 閉会